

日本佛教との交流

松ヶ岡文庫、鶴見大学、大本山總持寺を歴訪

通度寺の老天月下方丈ご一行を黒田理事長がご案内

「横浜善光寺留学僧育英会」の設立十周年記念式典に参列のため来日した韓国・通度寺の老天月下方丈ご一行は黒田理事長らの案内で、三月二十九日、鈴木大拙博士が晩年を過ごした北鎌倉の（財）松ヶ岡文庫を訪ねて、韓国と縁の深い文庫長の古田紹欽博士と歓談のひとつときを過ごされました。また、古田博士の案内で東慶寺、円覚寺にも参拝しました。古田博士は「老天方丈は持戒堅固の枯淡な禅僧で、韓国にはまだこのような僧がおられる」と喜んでいました。三十一日には佐藤俊明常務理事と東隆眞理事（駒沢女子大学副学長）が同行し横浜・鶴見の鶴

見大学を訪問して、高崎直道学長と懇談しました。黒田理事長が「瑩山禅師は女性を大事にされました。ここは總持寺境内にある女子のための学校で、歯学部をもつ特別意味のある学校です」と説明すると、老天方丈は「世界的に男性上位の考え方がありますが、これからは女性上位の動きになっていきます。この学校を開かれた人は先見の明があります」とユーモラスに応じられました。老天方丈は「高崎学長の名前は韓国でも有名です」と語り、会見の機会を得たことを喜んでいました。高崎学長は「通度寺拝登の機会をまだもたない」と述べ、鶴見大学に保存す



鶴見大学学長室にて



る道元禅師の「対大己法」の断簡の複製を一行に贈りました。

黒田理事長が「老天方丈は戒律堅固、韓国で方丈と呼ばれる四人の高僧の一人です」と紹介すると、高崎学長は「日韓は同じ佛教の流れでありながら内容が違っていきます。お坊さんの修行の点では韓国のほうが真摯だが、両国それぞれに特色があるので、そこをご覧になっていたきたい」と話していました。通度寺の定岳住持が「通度寺には僧伽大学があるので、鶴見大学と交流できるといいが」と尋ねたのに対し、高崎学長は「将来、佛教の研究所ができれば可能と思う」と述べて前向きな姿勢を示しました。

韓国の叢林で使われている五つの器を重ねた木製の大きな応量器と書が老天方丈から贈呈されると、高崎学長は興味深い様子で手に取っていました。この後、宮本延雄学監の案内で四十五万冊の蔵書を誇る近代的な大学図書館を見学

し、古書など稀覯本を保存する書庫を特別に拝観して図書館の職員の説明を聞かれました。

引き続き大本山總持寺に拝登し、新築間もない跳龍室で貫首梅田信隆禅師と相見。ここでも老天方丈から梅田禅師に木製の応量器と書が贈呈されました。席上、東理事は「韓国から老天方丈らがいらしたのは善光寺との縁です。本山もこれから国際化時代にそなえて、善光寺育英会を大いに活用していただきたい」と梅田禅師に希望を伝えました。

大山興隆後堂老師の案内で大祖堂、僧堂を巡り、三松閣で昼食を頂いて下山しました。